「はじめの一穂(歩)」

ＪＡ福井市青壮年部美山支部　松栄　貞行

ＪＡ福井市青壮年部美山支部は、平成２１年１月の福井市農業協同組合と越前美山農業協同組合の合併に伴い、新たに青壮年部組織を立ち上げる事となり、平成２１年３月２６日に設立総会を開き、盟友数２４名でスタートを切りました。まだ、今年で５年目の活動に入ったところです。まだまだ未熟な活動内容ではありますが、現在までの活動実績報告という事で発表させて頂きます。

主な活動としましては、学校教育田の指導、ゴーヤ緑のカーテンの設置、組合員の集いでの青壮年部コーナー、盟友間の親睦を図る懇親会を行っています。今回は、組合員の集いでの青壮年部コーナーについてと、メインの活動として行っている学校教育田の指導について発表させて頂きます。

まず組合員の集いでの青壮年部コーナーですが、平成２２年・２３年と２年続けてシシ鍋を作って販売しました。美山地区では毎年、農産物へのイノシシの被害が発生しており、電作柵やワイヤーメッシュ等で農地への進入を防ぐ対策を行っていますが、これだけではなかなか被害を減らしきれていません。箱オリ等によって捕獲して頭数を減らしていかないとなかなか被害を減らすことが難しいのかなと感じています。捕獲したイノシシも被害の根源として殺して処分するだけではなく、食肉としての利用という事も考慮してのシシ鍋です。

前日に会場の設営と鍋の準備(イノシシの肉を切ったり、野菜を切ったり)をしていましたが、「うまく味付けできるかな？」と心配をしながら進めて行きました、準備をしているうちに「イノシシの肉がいっぱいあるで、焼いて食べてみよう」という声がどこからともなく聞こえてきました。みんなおなかが減っていたためか、あっという間にバーベキューの準備が整い、イノシシの肉が焼かれていきました。味付けは、塩、コショーのみでしたが、臭みも無くこれがまた旨い！匂いに釣られてかＪＡの職員も集まって来て、焼き上がる肉が次々と無くなっていきました。「これなら明日のシシ鍋もかなり美味しいかも？」と期待を膨らましながら準備を終えました。祭り当日、具材が煮えるのを待ちながら、「さて、肝心の味付けは？」そこは盟友の奥様で、料理上手のＳさんに味付けを一任。味噌の量も最高で「美味しい！」これはいける、とみんなが唸りました。早速、組合員の集いに来られた方々にシシ鍋を勧めますが、最初は「イノシシの肉？」と敬遠されてなかなか食べてもらえませんでしたが、我々青壮年部の押しが効いたのか、徐々に食べてもらえる人も増えて来て、なんとか成功。２３年も２２年の成功を胸に、迷わずシシ鍋と焼イモを販売しました。経験が功を奏したのか、前年よりも盛況でした。２４年は大盛況を期待して意気込んでいたところ、多の団体が美山そば祭り会場でシシ鍋を出すので遠慮してくれないかと申し入れが

あり、やむなくシシ鍋を断念。相談の結果、白玉ぜんざいと麹で作ったノンアルコールの甘酒を作ることになりました。しかし、白玉ぜんざいはハードルが高すぎ、出来上がりがイマイチで最悪。さらに祭りの終了間際から雨も降り出し、メンバー皆、落胆。今年はなんとかシシ鍋復活！を目指しています。

次に美山支部のメイン行事であります学校教育田の指導についてです。学校教育田は、JA 福井市の営農指導員と協力しながら行っています。美山支部内には羽生小学校、美山啓明小学校、下宇坂小学校の３校の小学校が在り、５年生がそれぞれの学校田での田植え・稲刈りを行っています。写真は美山啓明小学校の田植えの様子です。美山啓明小学校と下宇坂小学校ではＪＡの硬化苗での田植えを行っていますが、羽生小学校では苗作りから生徒に体験してもらっています。

ここでは、羽生小学校での学校田の指導について説明させて頂きます。苗作りからの指導は平成２２年から行っています。花の種をまいて花が咲くまで観察するのと同じ様に、普段食べているお米が、どのような芽が出てどのように育ち、秋の収穫を向かえるのかを見てもらえたらと思い、校長先生に相談した所「それはありがたい話です。児童にも体験させてあげたい。」との快諾を頂き、実現する事となりました。さて苗作りですが、まず子供達に普段食べている白米と玄米と籾のそれぞれの状態を観察してもらいます。米のどの部分から芽がでるのかを理解してもらった所で、播種体験からスタートします。無加温のプール式育苗で、育苗期間を３０～３５日程としているので、５月２０日前後の田植えを行う為、まず播種体験を行い、育苗期間中に種籾の浸種から催芽を観察してもらうようにしています。(写真は熱帯魚飼育用のヒーターで水温を３０℃位にして催芽しているところです)用意しておいた催芽籾を播種してもらうのですが、苗箱に床土を入れるところから灌水、播種、覆土と役割を分担して全員に何かしらの作業をしてもらうようにしています。播種し終わった苗箱は、苗箱がちょうど入る大きさの衣装ケースに入れて、保温用の育苗シートをかけて、日当たりの良い場所に置き発芽を待ちます。その年の気温の推移にもよりますが、１週間から１０日程で発芽します。子供たちには随時、苗の成育状況も観察してもらっています。育苗作業の他にも鍬での田起こし等の作業もしてもらい、農業の厳しさも教えています。

田植えですが、昔ながらの田植え枠を回す体験もしてもらい、田植えを始めます。田植えにはＪＡ女性部のメンバーにも参加して頂いています。(ＪＡ女性部は収穫したお米の米粉での菓子作り等を指導しています)。子供たちは裸足で田んぼに入るので「気持ち悪い～」、「変な虫がいる」等と最初はなかなか田植えが進みませんでした。しかしそこは米どころ美山のこども達だからでしょうか、そのうち慣れて、みんな真剣な表情で作業をしてくれます。いつも「頼もしいな」と思いながら田植えが完了します。雑草の多い年には草取りも行っています。出穂期はちょうど夏休み中になってしまいますので、観察は夏休み明けに、学校のグラウンド横の田(青壮年部の作っている田)で、稲の開花している物がないかを観察してもらっています。いよいよ稲刈

り！ここでもJAの女性部や地域のお年寄りにも手伝ってもらい、稲を刈り束ねていきます。やはり稲を束ねるのが一番難しいようです。こうして刈取った稲は、プール横のフェンスに掛けて天日干しし、その後コンバインで脱穀します。脱穀後はＪＡのライスセンターにある、インペラ式の籾摺り機を借りて籾摺りを体験してもらい収穫体験が終了します。収穫したお米は、まず５年生だけでご飯を炊いて食べてみた後、１１月中旬に行われる羽生フェスティバルという学校行事で収穫したお米の米粉で作ったお菓子を販売します。(販売といっても実際は無料)毎年好評ですぐに無くなってしまいます。また、各学年がステージ発表を行いますが、５年生は米作りについて自分たちで考えたテーマで発表を行います。１２月には収穫感謝祭が行われ、全校児童でおにぎりにして食べています。子供たちに自分たちで育てたお米を食べた感想を聞くと、みな笑顔で「美味しかったよ～」と言ってくれたので、６ケ月間指導してきて良かったなと思いますし、来年も楽しい米づくりを指導しようと気持ちも新たになります。

苗作りからの学校田指導は羽生小学校だけで行っていますが、美山啓明小学校、下宇坂小学校でも取り組めるように提案していきたいと思います。また、現在は稲を育てる事のみの指導ですが、今後は学校田で栽培しているコシヒカリや盟友の栽培したハナエチゼンやあきさかり等、色々な品種のお米の食べ比べを行い、味や食感の違いなども知ってもらい、お米に対する興味を深めてもらいたいと思います、「やっぱりご飯が一番美味しいね」と言ってもらい、パンや麺類よりも進んでお米を食べてもらえる様になったら良いなと思っています。

本来、駆除の対象でしかないイノシシを利用した組合員の集いでのシシ鍋、学校教育田の指導とどちらも美山地区の農業にとって重要な取り組みだと考え取り組んでいます。これらの活動がＪＡ福井市青壮年部美山支部の「はじめの一歩」であると共に、美山の多くの子供達に美山の農業に興味を持ってもらえるように、また、美山の農業を引き継ぎたいという気持ちになってもらえるように、すべての活動が子供達の成長のはじめの一穂(歩)になるように、常に考えた活動を今後も活発に行っていきたいと思います。今後の目標としましては、子供達だけではなく範囲を広げて親にも参加してもらった「食農教育活動」を展開していく事と、美山地区の伝統野菜の「河内赤かぶら」の焼畑栽培技術の継承に取り組んで行きたいと考えています。

これでＪＡ福井市青壮年部美山支部の活動実績の報告を終わります。ご清聴ありがとうございました。